

2025年度西南学院大学学部横断プロジェクト

『サバイバー、歴史の証人に出逢う』 中高大連携企画

11/21(金) 16:50-18:30

4号館 101教室

植民地主義からとらえる パレスチナ問題と 市民の応答

南部真喜子氏

東京外国語大学総合国際学研究院・特別研究員

『エルサレムのパレスチナ人社会—壁への落書きが映す日常』

(風響社、2020年)

プロフィール：博士（学術）。東京外国語大学総合国際学研究院・特別研究員。都内非常勤講師。専攻は中東パレスチナ地域研究。植民地化と占領が生活空間にもたらす影響と、それに対するパレスチナ社会の抵抗実践や表現に関心を持つ。業績に『エルサレムのパレスチナ人社会—壁への落書きが映す日常』（風響社、2020年）や、「コラム：水+塩＝尊厳 パレスチナの囚人をめぐる運動」（長沢栄治監修・鷹木恵子編著『越境する社会運動』収録、明石書店、2024年）などがある。最近、パレスチナ連帯をはじめとする市民運動からも学びを得ている。

問い合わせ：初見かおり（外国語学部）hatsumi-k@seinan-gu.ac.jp

押尾高志（国際文化学部）t-oshio@seinan-gu.ac.jp

